パソコンを利用した中国語の教育と研究

松　村　文　芳

私どもの大学では第二外国語の中国語の授業で，一年生，二年生に対し年間５コマ中国語ワープロ・ソフト（文華13000）を教えております。また二年生に対してのみ年間５コマ中国語自動研修システムを使用した所謂「音声付CAI」の授業を実施しております。ワープロは1989年から３年間，CAIは1990年から２年間実施いたしました。ワープロは貴学でも御利用ですのでここではCAIのシステムを説明いたします。CAIのシステムは私と井内善臣（情報工学）が1984年から1986年にかけて開発・完成したものを実用化いたしました。このシステムはハードウェアとして，NECのPC9801のパソコンに音声入出力装置（ICB）を取りつけ，それをLLルームの各ブースにはめこみ，ヘッドホーン，ディスプレイをLL（のビデオ画面）と共用したものです。最大の特徴はパソコンのフロッピイに中国語の音声を保存し，ディスプレイに中国語簡体字の表示を可能にしたことです。装置は70台ありますので多数の学生が一度に利用できます。また画面にはモデル音（放送局アナウンサー）の波形が表示され，学習者の声も取りこんで波形表示してくれますので音を目で見ることが可能です。学生にはたいへん好評ですので今後は他の外国語の授業にも普及していくものと思われます。

次に中国語研究ですが，中国語担当教員は私一人ですので私自身の作業内容を紹介させていただきます。その一つは辞書の作成，もう一つは文献データベースの作成です。辞書は中国語，その日本語訳，英語訳のテキストの原文，訳文をそのままベタうち入力します。次に中国語テキストを一文ずつ区切ってゆき，それに通し番号をつけます。日本語，英語テキストも中国語の一文に対応させて区切り，それぞれに対応する通し番号を付します。後はロータス１－２－３（表計算ソフト）に読みこんで，文の通し番号をソートキーにして，中・日・英三ケ国語の対照デー

タベースを作成します。私は主要述語（主として動詞）を対照したデータベースを作成しましたので，さらにワークシートの左に一列分のセルを作成し，そこに対応する主要述語を書きだします（ローマ字表記）。その結果，日中英三ケ国語動詞対照・文脈検索用資料が完成します。これを利用して，日本語配列，中国語配列，英語配列の日中英動詞辞典を作成しました。

文献データベースの作成は前述のベタうちした中国語のテキストファイルをそのまま使用します。このファイルは有名作家の長編小説を二千頁程度保存しています。このファイルをエディターの Mifes（マイフェス）に読み込んで，語彙の検索等に利用します。従って中国語の用例を引用する場合にはわざわざカードを作成しなくても，わずか数秒で用例をすべて文書として書き出してくれます。中国語の教育・研究にパソコンは必須になりました。